

「明日が楽しみな町」を目指して――



▶町長就任あいさつ

日野町長 **近藤 宏**

2月24日、新町長に近藤宏氏が就任しました。近藤町長が町政への思いを語ります。

このたび町政を担うこととなり、改めて日野町の未来について考える日々を過ごしています。まずは、私自身のこれまでについて少しお話しさせていただきます。

私は日野町根雨で育ちました。私が入学した当時の根雨小学校は、現在の役場の位置にありました。54年前に母に手を引かれて登校した道を、現在登庁しています。

町長に就任する前は、重工業メーカーにて、ジェットエンジンの設計、プロジェクトマネージャー、品質保証を担当しました。ジェットエンジンが故障した際には、現地で現物を見ながら調査するなど、経験をし、現場主義の大切さを学びました。また、パイロットの方から「君達に命を預けているのだ」との叱咤激励をいただくことがあり、いつも身の引き締まる思いと、失敗を繰り返し返さない、真の原因を探究することの重要さも学びました。そのような経験から、現場主義、根本原因の探究を軸に、愚直に日野町の課題に向き合っていきます。

▼【消滅可能性自治体】

消滅可能性自治体とは、増田寛也氏らが編纂された書籍「地方消滅」及び「地方消滅2」で示された概念です。若年人口（20～39歳人口）の減少が著しく、文字どおり、いずれ消滅する可能性が高い自治体で、日野町も含まれます。消滅可能性自治体からの脱却は、必ず克服しなければならぬ課題です。

▼【明日が楽しみな町】

目指す町の姿は、「明日が楽しみな町」です。それは、病から回復して明日退院する、明日になったら家族と会える、というような健康や心の不安の解消、今日がんばったこと、挑戦したことの結果が待ち遠しい、そして自分自身、仲間、子供達の成長を楽しみ、自己実現の姿を楽しみとする姿です。そんな明るい未来を描ける町、それが私の目指す「明日が楽しみな町」です。

消滅可能性自治体から脱却し、「明日が楽しみな町」となるために、「子育て・教育」「医療・福祉」

「産業振興」「交流拠点整備」に取り組みます。

▼【子育て・教育】

若年人口に相当する世代は、まさに子育て世代です。子育て世代の流出を食い止めるためには、魅力的な教育を提供することが必須です。日野学園においては、人口減少とともに児童・生徒数が年々減少し、このことが教育への不安につながり、子育て世代の流出に拍車をかける負のスパイラルに陥っています。負のスパイラルから抜け出すために、少人数の弊害を克服する高品質で魅力的な教育に取り組みます。

▼【医療・福祉】

地域医療の維持は、定住の必須条件です。多くの公立病院が赤字経営に陥る中、日野病院は、経営基盤が比較的安定しています。地域医療の維持に課題を抱える周辺自治体と連携を図り、この日野病院が持つポテンシャルを最大限発揮して地域医療を維持し、高度化を図ります。また、高齢者のみの世帯、高齢者独居世帯が増加しており、社会的孤立、孤独感を緩和する

ため、地域巡回訪問の充実、集落支援員の増員、小さな拠点の拡充に加え、ICTツールによるコミュニケーションの導入についても検討を始めます。

▼【産業振興】

日野町の基幹産業である農業・林業は、いずれも後継者不足の課題を抱えています。後継者不足の問題については、昨年11月に策定した「日野町新・農業推進プラン」を確実に進めてまいります。

加えて、林業については、伐採適期でありながら放置された森林が多くあります。適切に活用し、林業活性化に取り組みます。

また、起業や新規分野への参入、需要掘り起こしなどへの挑戦を支援していきます。リノベーションLab、旧日野中学校内のサテライトオフィスをさらに充実させ、これら施設を起点に、挑戦したくてウズウズしている鬱憤を解放する機会を提供します。

観光業については、見るだけの観光ではなく、帰るだけの観光ではなく、学び、体験し、滞在や繰り返し来訪してもらえる観光

日野町の課題に向き合ひ、
「消滅可能性自治体」からの脱却を目指します



資源を発掘します。日野町内には、たたらなどの産業遺跡、歴史的建造物、史跡があり、活用できるはずで

▼【交流拠点整備】

日野町には山陰地方で最も重要な鉄道路線の一つである伯備線が走っています。特急が停車する根雨駅周辺には行政機関、商業施設、教育機関としての高校が立地し、交流拠点となるポテンシャルがあります。駅東西を結ぶ通路の設置、無人となった駅舎の活用

取り組みます。今後、二地域居住、ワーケーションが活発化すると見込まれます。この動きに取り残されないためにも、必要な整備です。

町民の方々の意見をお聞きしながら、思い込みではない日野町の実情に合致した施策を進めて参ります。特に少数派である若い世代の方々の意見を注意深く拾い上げることが大切だと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

「明日が楽しみな町」となるための 4つの取り組み

- ①子育て・教育
- ②医療・福祉
- ③産業振興
- ④交流拠点整備